

《第2回 ICDアワード受賞者》

第2回 ICDアワードを受賞いたしました



広島大学歯学部

多 和 実 月

この度は第2回ICDアワードを賜りましたこと、大変光栄に思います。私は今年の3月に広島大学歯学部を卒業し、4月より臨床研修医として勤務しております。在学時の課外活動に関して、生体材料学教授であり広島大学歯学部国際交流クラブ顧問の加藤功一教授よりご推薦をいただき、この度の受賞に至りました。

教育研究の国際化を積極的に進めている広島大学歯学部の環境が関心を持つ契機となり、私は入学後直ちに当クラブに入会しました。2018年夏季には加藤教授、当時International Association of Dental Student (IADS) の日本代表を務めていた堀元偲緒里先輩の下、同連盟主催の交換留学プログラムを広島大学歯学部とタイアップして実施しました。台湾およびスウェーデンの歯学部生5名に10日間にわたる研修プログラムを提供する中で、私は留学経験を活かして文化交流の企画を中心となって進めました。

また同時期に66th Annual Congress in Tunisiaに参加し、日本代表として上述のプログラムの実施状況や今後の展望を発表しました。役員会にて高く評価された結果、日本人として初めて東アジア地域の代表に選出され、ネパールでのボランティアプロジェクトを自ら立ち上げ、現地の歯科学生と連携して準備活動を進めることになりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施困難となりましたが、人的ネッ

トワークの維持が重要であるとの考えに基づき、6カ国の学生と計8日間にわたるオンライン討論会を開催し、国内の学生にも広く参加を呼びかけました。そこで構築されたネットワークはソーシャルメディアを通じて維持されており、学生間のグローバルかつ親密な交流の契機となったと考えております。

これらの活動を通して、私は国際的なネットワークや知見を広げることができました。加藤教授、堀元先輩、そして広島大学の先生方に心より感謝を申し上げます。学生時代における交流が国際貢献の礎となることを、自らのキャリアでも証明できるよう今後も精進して参ります。



図1 広島大学歯学部学位授与式にて